

令和6年度いしかわ森林環境基金評価委員会の概要

1. 日 時：令和6年11月7日（木） 13:00～15:30

2. 場 所：現地（津幡町吉倉地区・津幡町倉見地区）

石川県森林公園インフォメーションセンター 学習ホール

3. 出席状況：委員7名

4. 内 容：

（1）現地視察

①緩衝帯整備実施林【津幡町吉倉地区】

②放置竹林整備実施林【津幡町倉見地区】

（2）評価委員会【石川県森林公園インフォメーションセンター 学習ホール】

議事1. 令和5年度の取組実績について（資料1）

議事2. 令和6年度の取組状況について（資料2）

5. 結果概要（説明要旨、委員の主な意見等）

（1）現地視察

①緩衝帯整備実施林

緩衝帯整備に至った経緯、効果、整備後の維持管理の必要性などを紹介。

現地を見ていただくことにより、整備の必要性を委員に実感していただいた。

②放置竹林整備実施林

竹林整備現場の厳しい労働環境について説明。

急傾斜地での現場を実際に見ていただくことにより、委員に労働環境の厳しさを実感いただいた。

（2）評価委員会（議事要旨）

【委員】近年の豪雨の増加を踏まえ、山腹崩壊を防ぐために放置竹林整備事業を実施していると思うが、今年の能登半島豪雨で竹林はどの程度崩れたか。また事業実施地はどうか。

【事務局】まだ調査に至っていないが、今後検証してまいりたい。

【委員】奥能登豪雨の流木はスギ、アテの造林木が多い。放置された人工林が多く崩れたのではないか。そのような人工林がどれくらい崩れているのか、林地の状況によってもかなり崩れ方が違うのかもしれないので、そういったことも少し調べられたらいいのではないか。

【事務局】 今回の雨は観測史上最大であり、健全な森林であっても地面を支える限界を超えたものもあると思料。今後、ご指摘の観点からも現地を調査してまいりたい。

【委員】 森林整備では、計画に比べ実績が下回っているが、どういう状況なのか。

【事務局】 竹林整備については、現場が急傾斜であるとか、竹が高密度になっており、作業が困難になってきている。このことから、事業単価をアップさせたため、計画どおりにできなかったが、予算の確保に努め、計画数量の達成に努めてまいりたい。

【委員】 仮設住宅に対して県産材の利用はどのようになっているのか。これからの災害復興公営住宅の建築や、公民館、集会所を建て直しに際して、県産材を使ってもらいたいが、県としてはどのように考えているのか。

【事務局】 県の応急仮設住宅のうち、木造仮設は約 2 割を占めており、その中で県産材も使用されている。県産材についても、今後、山側からの供給、製材工場などの加工能力をアップして、急場の需要や長期的な需要にも耐えられるよう支援してまいりたい。